

# 5. NetWareで使う

NetWareでネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。NetWareではプリンターを「プリントサーバ」または「リモートプリンタ」として接続することができます。

## 補足

- あらかじめプリンターの操作パネルを使ってNetWareを有効にしておきます。設定方法について詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書 < 取り扱い編 > を参照してください。

## ❖ Infoprint Administratorについて

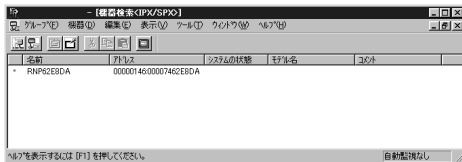
プリンターをNetWare環境で使用するには、Infoprint Administratorを使用してNetWareのプリント環境を設定します。Infoprint Administratorのインストールについて詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書 < 取り扱い編 > を参照してください。

## 補足

- 下記の環境でInfoprint Administratorを使用してプリント環境を設定するときは、Novellから提供されているNetWareクライアントがインストールされている必要があります。
  - Windows 95/98/Meで、NDSモードのとき
  - Windows 2000、Windows XP、Windows NT 4.0でNDSモードまたはBindaryモードのとき

## ❖ Infoprint Administratorに表示されるプリンターについて

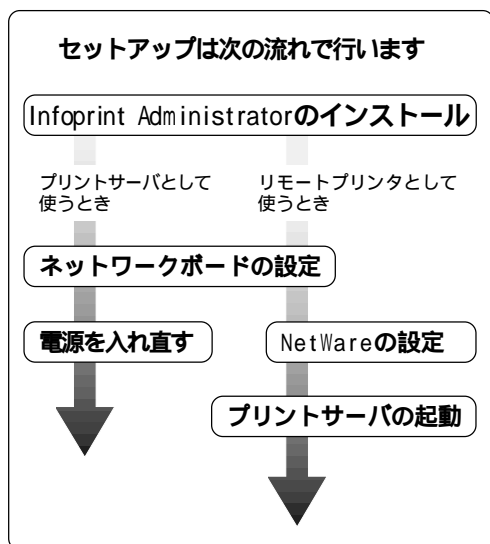
Infoprint Administratorには、ネットワークに接続されているプリンターの一覧が表示されます。



表示されるプリンター名から目的のプリンターがわからないときは、プリンターからシステム設定リストを印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法について詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書 < 取り扱い編 > を参照してください。

## NetWare3.xJでのセットアップ

NetWareのプリンター環境の設定のしかたはプリンターの使い方（プリントサーバ/リモートプリンタ）によって異なります。ここではNetWare3.xJにおいて、プリンターをプリントサーバとして使用する場合と、リモートプリンタとして使用する場合について説明します。



### 補足

- NetWareが正しく動作し、プリントサービスを設定できる環境が整っていることを前提にしています。
- 操作例は次の条件で設定しています。
  - ファイルサーバの名前...CAREE
  - プリントサーバの名前...PSERV
  - プリンターの名前...R-PRN
  - キューの名前...R-QUEUE

## プリントサーバとして使う

- 1 Supervisor または同等の権利を持つユーザとしてログインします。
- 2 Infoprint Administratorを起動します。
- 3 [グループ]メニューをクリックし、[機器検索]をポイントし、[IPX/SPX]をクリックします。



設定できるプリンターの一覧が表示されます。



### 補足

- 表示されるプリンタ名から設定するプリンターがわからないときは、プリンターからシステム設定リストを印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法について詳しくは、CD-ROM に収録されている使用説明書 <取り扱い編> を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプをコンピュータと機器で一致させてください。コンピュータのフレームタイプはWindowsの[ネットワーク]ダイアログで変更します。機器のフレームタイプを変更する方法は、CD-ROMに収録されている使用説明書 <取り扱い編> を参照してください。
- メインウィンドウにはIBM以外のプリンターが表示されることがあります。

**4** 設定するプリンターをクリックして反転表示させ、[ ツール ] メニューの [ イーサネットボード設定 ] をクリックします。

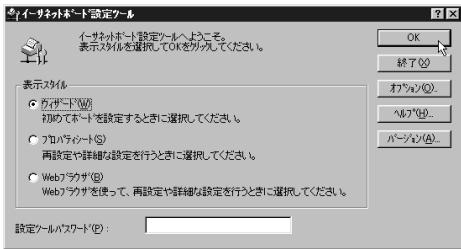


イーサネットボード設定ツールが起動します。

**制限**

- イーサネットボード設定ツールはIBM以外のプリンターには対応していません。

**5** [ ウィザード ] をクリックして選択し、[ OK ] をクリックします。



イーサネットボード設定ダイアログが表示されます。

**6** 必要に応じて [ デバイス名 ] と [ コメント ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



**7** [ NetWare ] に [ ✓ ] 印を付け、[ 次へ ] をクリックします。

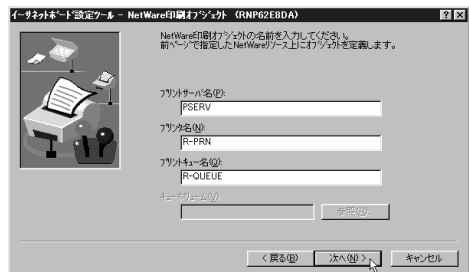


**8** [ バインダリモード ] をクリックして選択し、[ ファイルサーバ名 ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



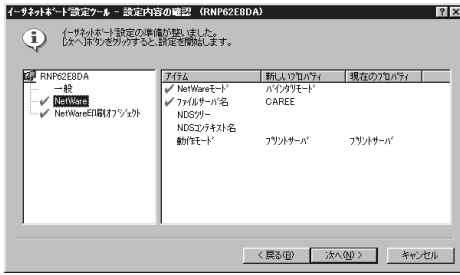
- [ ファイルサーバ名 ] には、プリントサーバを作成するファイルサーバ名 (この例では CAREE) を入力します。[ 参照 ] をクリックして一覧からファイルサーバを選択することもできます。

**9** [ プリントサーバ名 ] [ プリンタ名 ] [ プリントキュー名 ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



- [ プリントサーバ名 ] には、NetWareのプリントサーバ名 (この例では、PSERV) を47バイト以内の半角英数字で入力します。
- [ プリンタ名 ] には、NetWareのプリンター名 (この例では、R-PRN) を入力します。
- [ プリントキュー名 ] には、NetWare上に追加するプリントキューの名前 (この例の場合 R-QUEUE) を入力します。

**10** 設定を確認し、[次へ]をクリックします。



設定が反映され、イーサネットボード設定ツールが終了します。

**11** Infoprint Administratorを終了します。

**12** プリンターの電源を入れ直します。

**補足**

□ プリンターが設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
F:\> USERLIST
```

□ 正しく動作していると、接続しているユーザ名としてプリントサーバ名(この例ではPSERV)が表示されます。

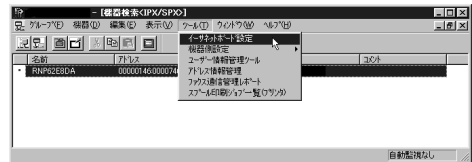
**補足**

□ 表示されるプリンタ名から設定するプリンターがわからないときは、プリンターからシステム設定リストを印刷し、そのプリンター名を比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書<取り扱い編>を参照してください。

□ プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプをコンピュータと機器で一致させてください。コンピュータのフレームタイプはWindowsの[ネットワーク]ダイアログで変更します。機器のフレームタイプを変更する方法は、CD-ROMに収録されている使用説明書<取り扱い編>を参照してください。

□ メインウィンドウにはIBM以外のプリンターが表示されることがあります。

**4** 設定するプリンターをクリックして反転表示させ、[ツール]メニューの[イーサネットボード設定]をクリックします。

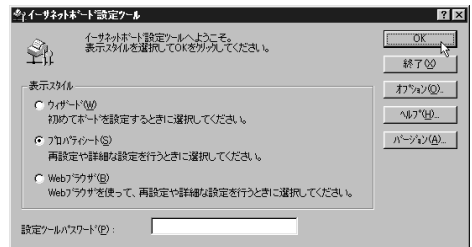


イーサネットボード設定ツールが起動します。

**制限**

□ イーサネットボード設定ツールはIBM以外のプリンターには対応していません。

**5** [プロパティシート]をクリックして選択し、[OK]をクリックします。



イーサネットボード設定ダイアログが表示されます。

## リモートプリンタとして使う

**1** Supervisorまたは同等の権利を持つユーザとしてログインします。

**2** Infoprint Administratorを起動します。

**3** [グループ]メニューをクリックし、[機器検索]をポイントし、[IPX/SPX]をクリックします。



設定できるプリンターの一覧が表示されます。



**6** [ NetWare ] タブをクリックします。

**7** 環境を設定します。

**①** [ プリントサーバ名 ] ボックスに、プリントサーバの名前を入力します。

 補足

□ 47 バイト以内の半角英数字で入力してください。

**②** [ ファイルサーバ名 ] に、プリントサーバを作成するファイルサーバ名を入力します。

[ 参照 ] をクリックすると、ファイルサーバを一覧から選択できます。

**③** [ 動作モード ] グループの [ リモートプリンタ ] をクリックして選択します。

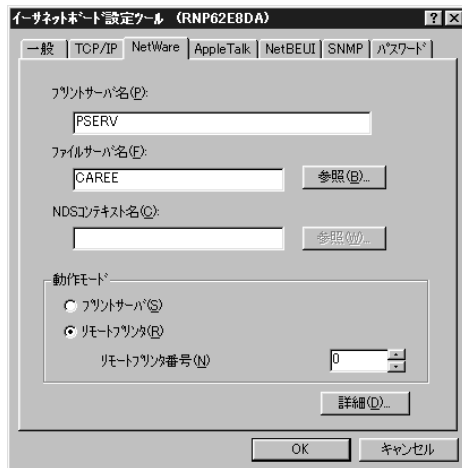
**④** [ リモートプリンタ番号 ] ボックスに、プリンタ番号を入力します。

 重要

□ プリントサーバ上に作成するプリンターの番号と一致させてください。

**⑤** [ OK ] をクリックします。

イーサネットボード設定ツールが終了します。



**8** Infoprint Administrator を終了します。

**9** コマンドプロンプトで「PCONSOLE」と入力します。

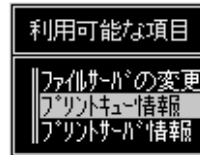
F:> PCONSOLE

**10** プリントキューを作成します。

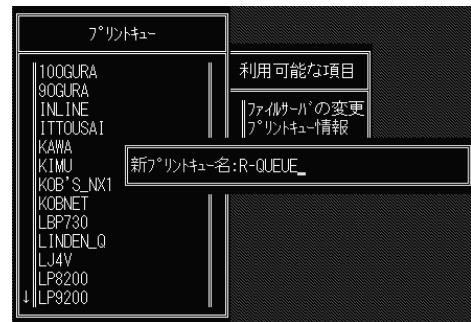
 補足

□ 既存のプリントキューを使用する場合は、手順10に進みます。

**①** [ 利用可能な項目 ] メニューから [ プリントキュー情報 ] を選択します。



**②** Insert キーを押し、プリントキュー名を入力します。

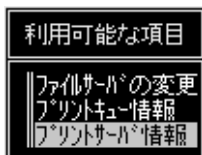


**③** Esc キーを押します。

[ 利用可能な項目 ] メニューに戻ります。

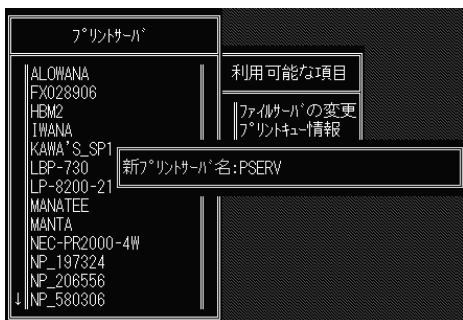
11 プリンターを作成します。

- 1 [利用可能な項目]メニューから[プリントサーバ情報]を選択します。



- 2 新しいプリントサーバを作成する場合は、Insertキーを押し、プリントサーバ名を入力します。

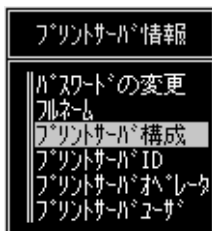
既存のプリントサーバを使用する場合は、[プリントサーバ]一覧から使用するプリントサーバを選択します。



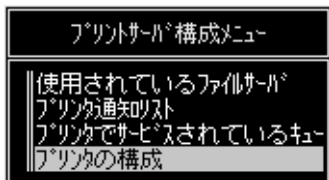
**重要**

- Infoprint Administratorで設定したプリントサーバ名(手順7-1)と一致させてください。

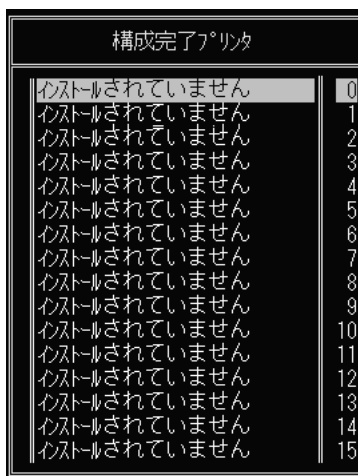
- 3 [プリントサーバ情報]メニューから[プリントサーバ構成]を選択します。



- 4 [プリントサーバ構成メニュー]から[プリンタの構成]を選択します。



- 5 「インストールされていません」と表示されているプリンターを選択します。

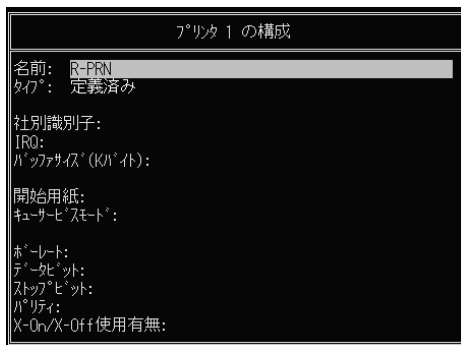


**重要**

- Infoprint Administratorで設定したプリンタ番号(手順7-4)と一致させてください。

- 6 プリンターの名前を変更する場合は、新しい名前を入力します。

名前は選択したプリンターの番号に応じて「プリンタx」と付けられています。

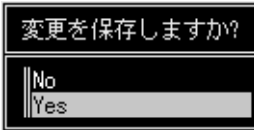


- ⑦ タイプとして[リモートパラレル, LPT1]を選択します。

IRQ、バッファサイズ、開始用紙、キューサービスモードは自動的に設定されます。



- ⑧ Escキーを押し、確認画面で[Yes]を選択します。

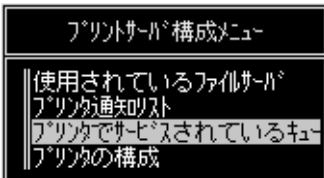


- ⑨ Escキーを押します。

[プリントサーバ構成メニュー]に戻ります。

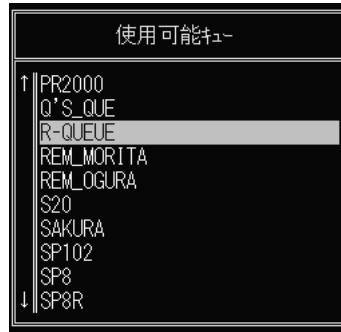
- ⑫ 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。

- ① [プリントサーバ構成メニュー]から[プリンタでサービスされているキュー]を選択します。



- ② 手順⑫で作成したプリンターを選択します。

- ③ Insertキーを押し、プリンターに割り当てるキューを選択します。



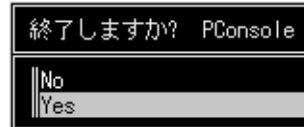
**補足**

- 複数のキューを選択することもできます。

- ④ 画面表示にしたがって、その他の項目を入力します。

入力後、プリンターにキューが割り当てられたことを確認してください。

- ⑬ 「終了しますか?」と表示されるまでEscキーを押し、[Yes]を選択します。



PCONSOLEが終了します。

- ⑭ NetWare サーバのコンソールから次のように入力してプリントサーバを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

**❖ 停止する**

CAREE: unload pserver

**❖ 起動する**

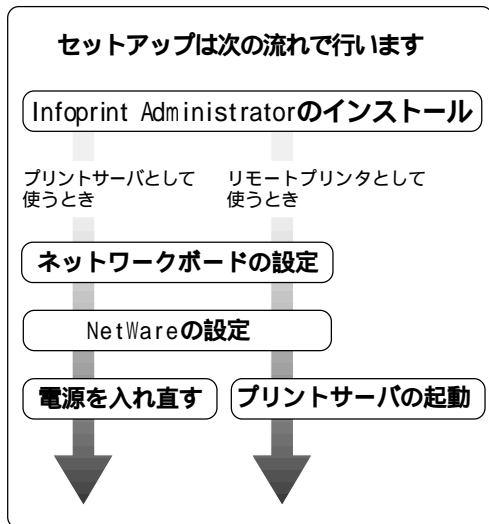
CAREE: load pserver プリントサーバ名

**補足**

- プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

# NetWare4.xJ、 NetWare5/5.1Jでのセットアップ

NetWareのプリンター環境の設定のしかたはプリンターの使い方（プリントサーバ/リモートプリンタ）によって異なります。ここではNetWare4.xJ/NetWare5/5.1Jにおいて、プリンターをプリントサーバとして使用する場合と、リモートプリンタとして使用する場合について説明します。



## 補足

- NetWareが正しく動作し、プリントサービスを設定できる環境が整っていることを前提にしています。
- 操作例は次の条件で設定しています。
  - ファイルサーバの名前...CAREE
  - プリントサーバの名前...PSERV
  - プリンターの名前...R-PRN
  - キューの名前...R-QUEUE

## ❖ NetWare5/5.1Jをお使いの方へ

- プリンターはプリントサーバとしてお使いください。ピュアIP環境でお使いの場合は、リモートプリンタとしては使用できません。
- ピュアIP環境でお使いの場合は、プリンターでTCP/IP プロトコルが使用できるように設定してください。設定方法について詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書〈取り扱い編〉を参照してください。

## プリントサーバとして使う

### 重要

- NetWare4.xJ/NetWare5/5.1Jにおいてプリントサーバとして使用する場合は、NDSモードで使用してください。

- 1 サーバにAdminでログインします。
- 2 Infoprint Administratorを起動します。
- 3 [グループ]メニューをクリックし、[ 機器検索 ]をポイントし、[ IPX/SPX ]をクリックします。



設定できるプリンターの一覧が表示されず。



## 補足

- NetWare5/5.1JのピュアIP環境でお使いの方は、[ TCP/IP ]を選択してください。
- 表示されるプリンタ名から設定するプリンターがわからないときは、プリンターからシステム設定リストを印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷について詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書〈取り扱い編〉を参照してください。



- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプをコンピュータと機器で一致させてください。コンピュータのフレームタイプはWindowsの[ ネットワーク ]ダイアログで変更します。機器のフレームタイプを変更する方法は、CD-ROMに収録されている使用説明書 < 取り扱い編 > を参照してください。
- メインウィンドウには IBM 以外のプリンターが表示されることがあります。

**4** 設定するプリンターをクリックして反転表示させ、[ ツール ] メニューの [ イーサネットボード設定 ] をクリックします。



イーサネットボード設定ツールが起動します。

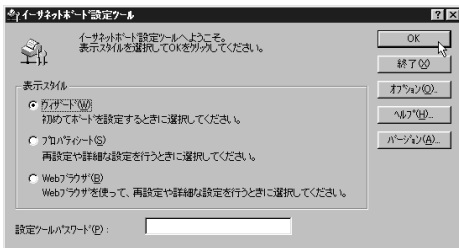
**制限**

- イーサネットボード設定ツールは IBM 以外のプリンターには対応していません。

**補足**

- NetWare5/5.1JのピュアIP環境でご使用の方はP.86 「NetWare5/5.1JのピュアIP環境でお使いの方へ」に進んでください。

**5** [ ウィザード ] をクリックして選択し、[ OK ] をクリックします。



イーサネットボード設定ダイアログが表示されます。

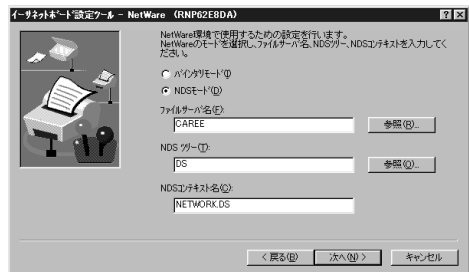
**6** 必要に応じて[ デバイス名 ] と [ コメント ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



**7** [ NetWare ] に [ ✓ ] 印を付け、[ 次へ ] をクリックします。



**8** [ NDSモード ] をクリックして選択し、[ ファイルサーバ名 ]、[ NDSツリー ]、[ NDSコンテキスト名 ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



- [ ファイルサーバ名 ] には、プリントサーバを作成するファイルサーバ名 (この例ではCAREE) を入力します。[ 参照 ] をクリックして一覧からファイルサーバを選択することもできます。
- [ NDSツリー ] には、プリントサーバを作成するNDS ツリーの名前を入力します。[ 参照 ] をクリックして一覧からNDS ツリーを選択することもできます。

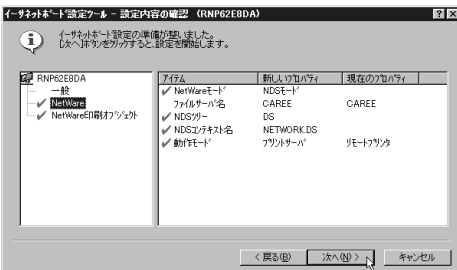
- [ NDS コンテキスト名 ]には、プリントサーバを作成するコンテキストを入力します。コンテキストはRootからのオブジェクトを下の階層から順にピリオド(.)で区切って入力します。たとえばRoot上の組織オブジェクトがDSで、その下の部門オブジェクトNETWORK にプリントサーバを作成するときは、「NETWORK.DS」と入力します。[ 参照 ] をクリックして一覧から NDS コンテキストを選択することもできます。

**9** [ プリントサーバ名 ] [ プリント名 ] [ プリントキュー名 ] [ キューボリューム ] を入力し、[ 次へ ] をクリックします。



- [ プリントサーバ名 ]には、NetWareのプリントサーバ名(この例では、PSERV)を47バイト以内の半角英数字で入力します。
- [ プリント名 ]には、NetWare のプリンター名(この例では、R-PRN)を入力します。
- [ プリントキュー名 ]には、NetWare上に追加するプリントキューの名前(この例の場合R-QUEUE)を入力します。
- [ キューボリューム ]には、キューを作成するボリュームを入力します。ボリュームはオブジェクトを下の階層から順にピリオドで区切って入力します。[ 参照 ] をクリックして一覧からボリュームを選択することもできます。

**10** 設定を確認し、[ 次へ ] をクリックします。



設定が反映され、イーサネット設定ユーティリティが終了します。

**11** Infoprint Administratorを終了します。

**12** プリンターの電源を入れ直します。

**補足**

- プリンターが設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。  
F:> NLIST USER /A/B
- 正しく動作していると、接続しているユーザ名としてプリントサーバ名(この例ではPSERV)が表示されます。

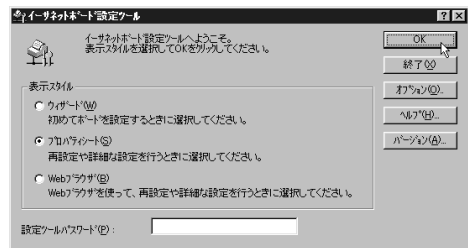
NetWare5/5.1JのピュアIP環境でお使いの方へ

**補足**

- IPXを使用しない場合は、Webブラウザでプリントサーバプロトコルを「TCP/IP+IPX」から「TCP/IP」に変更しておくことをお勧めします。

NetWare5/5.1JのピュアIP環境でキューベースのプリントサーバを作成する場合、NetWareアドミニストレータを使用してファイルサーバ上にプリントキューを作成する必要があります。この場合、P.84「プリントサーバとして使う」の手順9以降を次のように操作してください。

**1** [ プロパティシート ] をクリックして選択し、[ OK ] をクリックします。



イーサネットボード設定ダイアログが表示されます。

**2** [ NetWare ] タブをクリックします。

**3** 環境を設定します。

**1** [ プリントサーバ名 ] ボックスに、プリントサーバの名前を入力します。

**補足**

- 47 バイト以内の半角英数字で入力してください、

- ② [ファイルサーバ名]に、プリントサーバを作成するファイルサーバ名を入力します。

[参照]をクリックすると、ファイルサーバを一覧から選択できます。

- ③ NDSコンテキスト名に、プリントサーバのコンテキストを入力します。

[参照]をクリックすると、NDSコンテキストを一覧から選択できます。

#### 補足

- コンテキストは Root からのオブジェクトを下の階層から順にピリオド(.)で区切って入力します。たとえば Root上の組織オブジェクトがDSで、その下の部門オブジェクト NETWORK にプリントサーバを作成するときは、「NETWORK.DS」と入力します。

- ④ [動作モードグループ]の[プリントサーバ]をクリックして選択します。



- ⑤ [OK]をクリックします。

インターネット設定ユーティリティが終了します。

- 4 Infoprint Administratorを終了します。

この後の操作は、P.87「リモートプリンタとして使う」の手順⑨以降を参考にして操作を行ってください。ただし、手順③、④の操作は不要です。

## リモートプリンタとして使う

### 重要

- NetWare4.xJ、NetWare5/5.1Jにおいてリモートプリンタとして使用する場合は、NDSモードで使用してください。
- NetWare5/5.1JのピュアIP環境の場合、リモートプリンタとして使用できません。

- 1 サーバにAdminでログインします。
- 2 Infoprint Administratorを起動します。
- 3 [グループ]メニューをクリックし、[機器検索]をポイントし、[IPX/SPX]をクリックします。



設定できるプリンターの一覧が表示されません。



#### 補足

- 表示されるプリンタ名から設定するプリンターがわからないときは、プリンターからシステム設定リストを印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法について詳しくは、CD-ROM に収録されている使用説明書 <取り扱い編>を参照してください。

- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプをコンピュータと機器で一致させてください。コンピュータのフレームタイプはWindowsの[ ネットワーク ]ダイアログで変更します。機器のフレームタイプを変更する方法は、CD-ROMに収録されている使用説明書 < 取り扱い編 > を参照してください。
- メインウィンドウにはIBM以外のプリンターが表示されることがあります。

**4** 設定するプリンターをクリックして反転表示させ、[ ツール ] メニューの [ イーサネットボード設定 ] をクリックします。

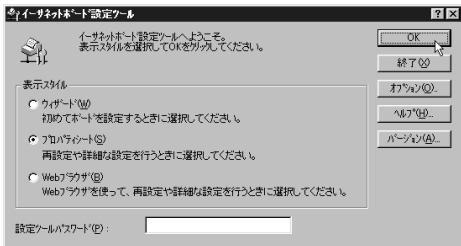


イーサネットボード設定ツールが起動します。

**制限**

- イーサネットボード設定ツールはIBM以外のプリンターには対応していません。

**5** [ プロパティシート ] をクリックして選択し、[ OK ] をクリックします。



[ イーサネットボード設定 ] ダイアログが表示されます。

**6** [ NetWare ] タブをクリックします。

**7** 環境を設定します。

- ① [ プリントサーバ名 ] ボックスに、プリントサーバの名前を入力します。

**補足**

- 47 バイト以内の半角英数字で入力してください。

- ② [ ファイルサーバ名 ] に、プリントサーバを作成するファイルサーバ名を入力します。

[ 参照 ] をクリックすると、ファイルサーバを一覧から選択できます。

- ③ NDSコンテキスト名に、プリントサーバのコンテキストを入力します。

[ 参照 ] をクリックすると、NDSコンテキストを一覧から選択できます。

**補足**

- コンテキストはRootからのオブジェクトを下の階層から順にピリオド(.)で区切って入力します。たとえばRoot上の組織オブジェクトがDSで、その下の部門オブジェクトNETWORKにプリントサーバを作成するときは、「NETWORK.DS」と入力します。

- ④ [ 動作モードグループ ] の [ リモートプリンタ ] をクリックして選択します。



- ⑤ [ プリント番号 ] ボックスに、プリンタ番号を入力します。

**重要**

- プリントサーバ上に作成するプリンターの番号と一致させてください。

- ⑥ [ OK ] をクリックします。

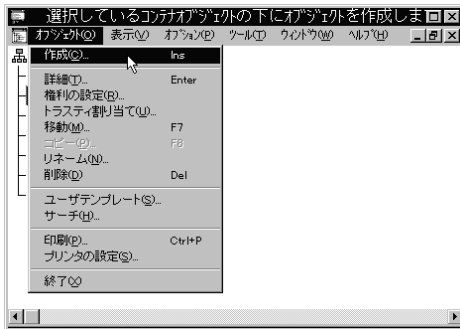
イーサネット設定ユーティリティが終了します。

- ⑧ Infoprint Administratorを終了します。

- ⑨ Windows上でNetWareアドミニストレータを起動します。

## 10 プリントキューを作成します。

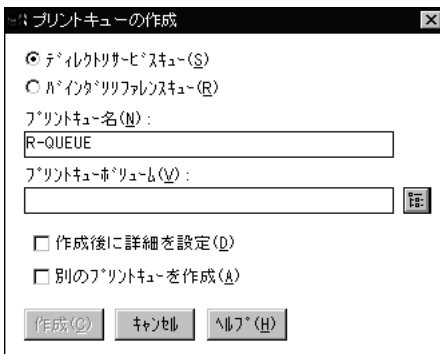
- 印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリツリーから選び、[オブジェクト]メニューの[作成]をクリックします。



- [オブジェクトクラス]ボックスの「プリントキュー」をクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。

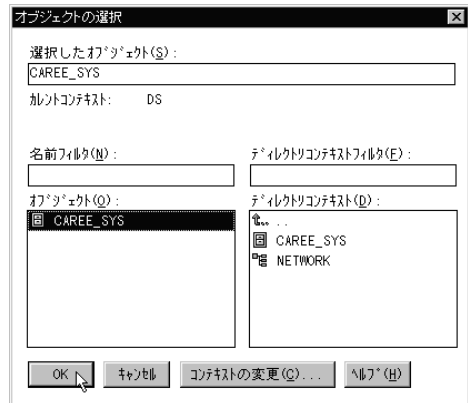


- [プリントキュー名]ボックスに、プリントキューの名前を入力します。

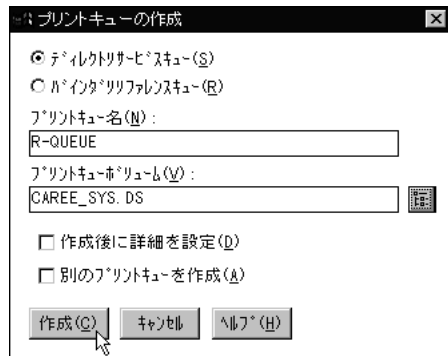


- [プリントキューボリューム]ボックスのブラウザボタンをクリックします。

- [オブジェクト]ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



- 設定内容を確認し、[作成]をクリックします。

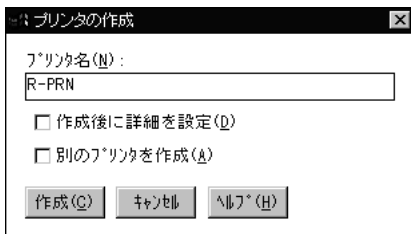


11 プリンターを作成します。

- 1 部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト]メニューの[作成]をクリックします。
- 2 [オブジェクトクラス]ボックスの「プリンタ」をクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



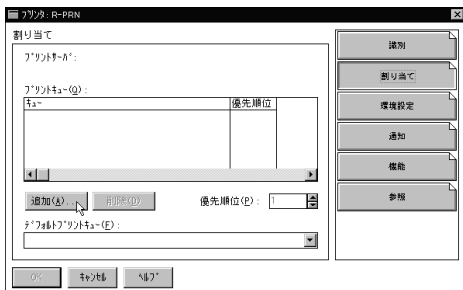
3 [プリンタ名]ボックスに、プリンターの名前を入力します。



4 [作成後に詳細を設定]をクリックして✓印を付け、[作成]をクリックします。

12 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。

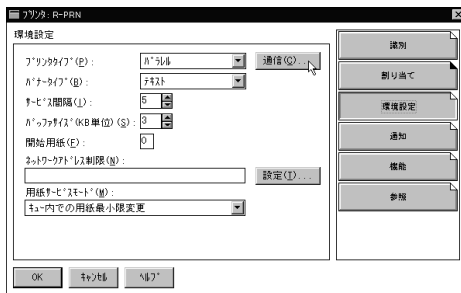
1 [割り当て]をクリックし、[割り当て]グループの[追加]をクリックします。



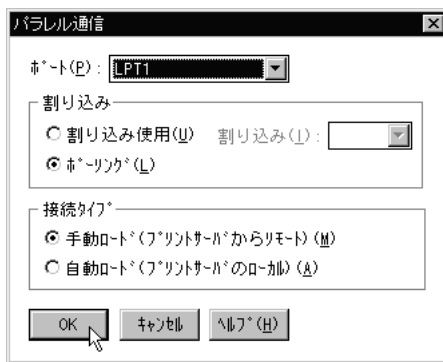
2 [オブジェクト]ボックスで手順10で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



3 [環境設定]をクリックし、[プリンタタイプ]ボックスのドロップダウンメニューから「パラレル」を選び、[通信]をクリックします。



4 [接続タイプ]グループの[手動ロード]をクリックし、[OK]をクリックします。



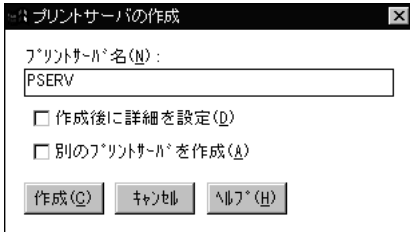
5 設定内容を確認し、[OK]をクリックします。

**13** プリントサーバを作成します。

- ① 部門または組織オブジェクトを選び、[オブジェクト]メニューの[作成]をクリックします。
- ② [オブジェクトクラス]ボックスの「プリントサーバ」をクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



③ [プリントサーバ名]ボックスに、プリントサーバの名前を入力します。



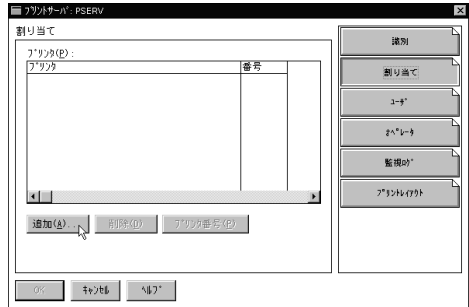
**重要**

- Infoprint Administratorで設定したプリントサーバ名(手順13-①)と一致させてください。

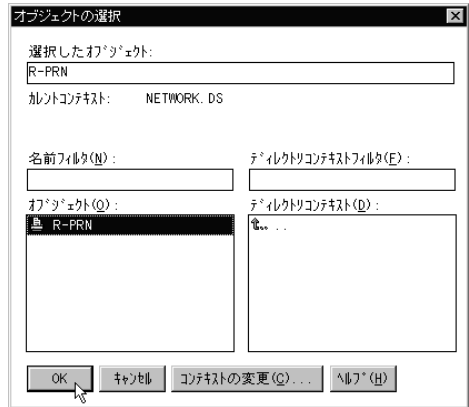
④ [作成後に詳細を設定]をクリックして✓印を付け、[作成]をクリックします。

**14** 作成したプリントサーバにプリンターを割り当てます。

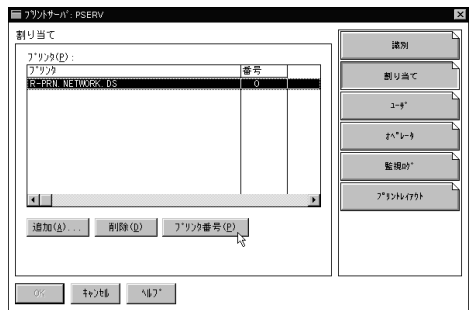
- ① [割り当て]をクリックし、[割り当て]グループの[追加]をクリックします。



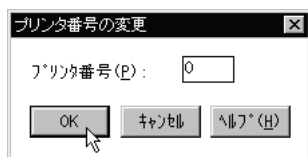
② [オブジェクト]ボックスで手順①で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



③ [プリンタ]グループで手順②で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、[プリンタ番号]をクリックします。



- ④ プリンタ番号を入力し、[ OK ]をクリックします。



### 重要

- Infoprint Administratorで設定したりモートプリンタ番号(手順7-5)と一致させてください。

- ⑤ 設定内容を確認し、[ OK ]をクリックします。

- 15 NetWare サーバのコンソールから次のように入力してプリントサーバを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

#### ❖ 停止する

CAREE: unload pserver

#### ❖ 起動する

CAREE: load pserver



# クライアント側のセットアップ

NetWareのプリントサーバを使用した場合のクライアント側のセットアップ方法を説明します。

## 補足

- Nobell ClientはOSに付属のバージョンまたは、最新のバージョンをお使いください。
- ここでの説明はクライアントに NetWare クライアントソフトウェアがインストールされ、NetWareのサーバと正しく通信できる環境に設定されていることを前提にしています。
- 操作例は次の条件で設定しています。
  - NetWareのバージョン...4.1J
  - ファイルサーバの名前...CAREE
  - キューの名前...R-QUEUE

## Windows 95/98/Me

プリンタードライバーをインストールしたあと、印刷先のポートをNetWareのキューに変更します。

### 操作の前に

NetWare のファイルサーバにログインした状態で操作してください。

- 1** 印刷するプリンターのプリンタードライバーを、「ローカルプリンタ」としてインストールします。

### 参照

インストール方法について詳しくは、CD-ROM に収録されている使用説明書 <取り扱い編> を参照してください。

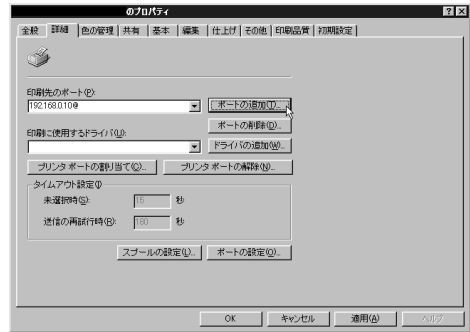
### 補足

- インストールの途中でプリンターが使用するポートを選択しますが、どのポートを選んででもかまいません。通常は「LPT1」を選んでください。

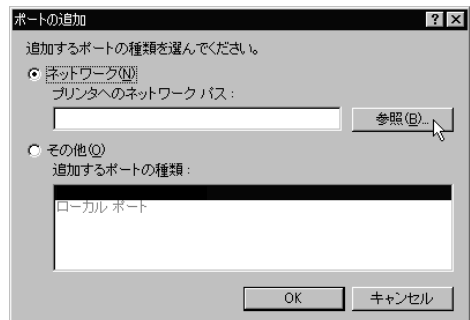
- 2** [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

- 3** [プリンタ] ウィンドウで、印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

- 4** [詳細] タブをクリックし、[ポートの追加] をクリックします。



- 5** [ネットワーク] をクリックし、[参照] をクリックします。



**6** ネットワークツリー上で、NetWareのファイルサーバの名前をダブルクリックします。

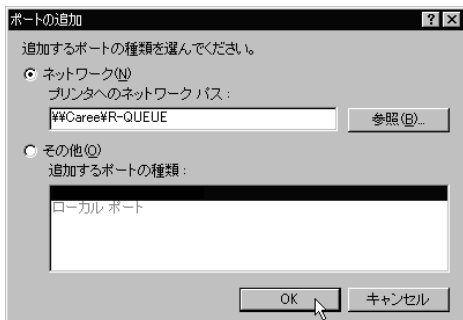


作成されているキューが展開されます。

**7** 印刷するキューをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。



**8** [OK]をクリックします。



[印刷先のポート]ボックスに、プリンターへのネットワークパスが入力されます。



**9** [OK]をクリックしてプリンターのプロパティを閉じたあと、もう一度プリンターのプロパティを開きます。

**10** [ポートの割り当て]タブをクリックします。

**11** [ジョブ後に用紙を送る]と[見出しページ]のチェックを両方とも外します。



**補足**

- Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているので、フォームフィード(用紙送り)をNetWare上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。

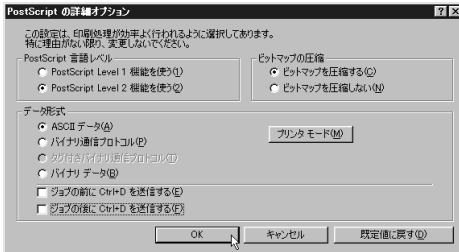
## PostScript印刷するとき

PostScript 3を含んだモジュールを使ってPostScript印刷するときは、次の設定をします。

- ① [ PostScript ] タブをクリックします。
- ② [ 詳細 ] をクリックします。



- ③ [ ジョブの前に Ctrl+D を送信する ] と [ ジョブの後にCtrl+Dを送信する ] のチェックを両方とも外し、[ OK ] をクリックします。



- ④ [ OK ] をクリックし、プロパティを閉じます。

## DOS

DOSのアプリケーションから印刷する場合は、印刷の前にCAPTUREコマンドを使って、LPT1ポートをネットワークプリンターにリダイレクトしておきます。

```
F:> CAPTURE /S=FSEVER /Q=R-QUEUE /NB
```

- /S で NetWare のファイルサーバを、/Q でキューを指定します。
- /NB はバナーを付けたいためのオプションです。

リダイレクト後にDOSのアプリケーションから印刷を実行するとNetWareのキューに印刷データが送られ、ネットワークプリンターで印刷されます。



## セットアップ

MacintoshのEtherTalk環境でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。Macintoshの操作方法は使用しているOSのバージョンによって多少異なります。ここではMac OS 9.1、またはMac OS X 10.1をを例に説明します。その他のバージョンをお使いの方は、本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

セットアップは次の流れで行います

Macintosh側をEtherTalkに切り替える

プリンターの設定

プリンター名の変更

動作ゾーンの変更

### 制限

- 対象となるMac OSのバージョンは8.6以上、Mac OS Xのバージョンはv10.1以上です。
- Macintoshから印刷するにはPostScript 3を含むモジュール(オプション)がプリンターに増設されている必要があります。
- Macintoshで使用するためには、PostScript 3を含むモジュールに同梱のCD-ROMに収録されている、Adobe PSプリンタードライバーが必要です。

## EtherTalkへの切り替え

EtherTalkを使用するには、次の手順でネットワークの接続方式を切り替えます。

### 参照

EtherTalkに必要なソフトウェアのインストールについて詳しくは、Macintoshのマニュアルを参照してください。

Mac OSの場合

- 1 [コントロールパネル]を開き、[AppleTalk]アイコンをダブルクリックします。

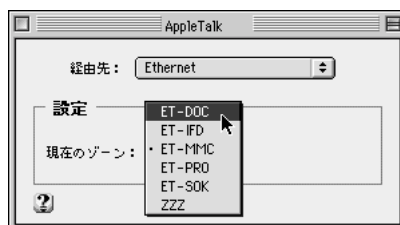


AppleTalk

- 2 [経由先]ポップアップメニューから「Ethernet」を選択します。



- 3 ゾーンを変更するときは、[現在のゾーン]ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。



**4** [ AppleTalk ]コントロールパネルを閉じます。

**5** Macintoshを再起動します。

### Mac OS Xの場合

#### 補足

- 一般ユーザーの場合、ゾーンの変更にはユーザー名とパスワードが必要です。管理者にお問い合わせください。

**1** [ System Preference ]を開き、[ ネットワーク ]アイコンをダブルクリックします。



**2** [ AppleTalk ] タブをクリックします。

**3** ゾーンを変更する場合には、[ AppleTalk ゾーン: ] ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。

**4** 設定が完了したら、[ 今すぐ適用 ] をクリックしてください。



## プリンターの設定

プリンター側でAppleTalkプロトコルを有効にします（工場出荷時は有効です）。

#### 参照

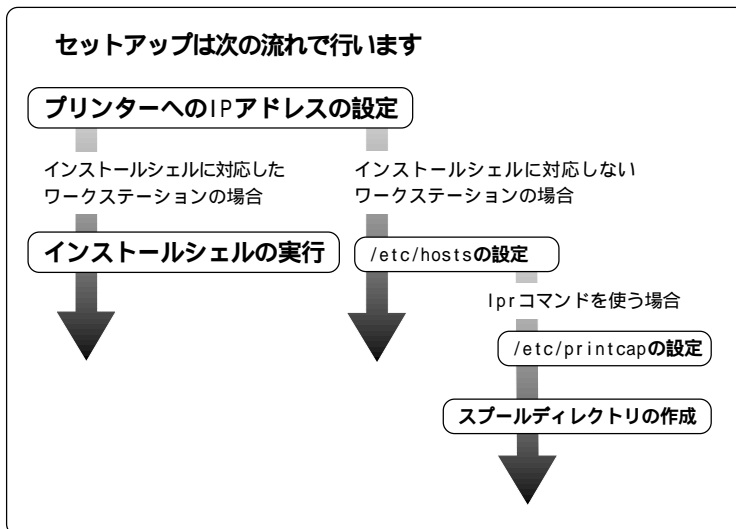
設定方法について詳しくは、CD-ROMに収録されている使用説明書〈取り扱い編〉を参照してください。

# 7. UNIXで使う

UNIXでネットワークプリンターを使用する場合のセットアップとプリンターの状態表示のしかたを説明します。

## セットアップ

セットアップの作業を簡単に行えるようにインストールシェルが用意されています。インストールシェルは通常のリモートプリンターのセットアップ作業( /etc/hostsの設定、/etc/printcapの設定、スプールディレクトリの作成 )をシェルスクリプトにより自動化して行います。



### 📁 操作の前に

インストールシェルは次の 6 種類のワークステーションに対応しています。これ以外のワークステーションの場合はインストールシェルを使わないでセットアップしてください。

- SunOS 4.x.x
- Solaris 2.x (SunOS 5.x)、Solaris7、Solaris8
- HP-UX 8.07、9.x、10.x、11.x
- RedHat Linux 5.2、6.2、7、7.1
- UnixWare 7.1.1
- OpenServer 5.06

RedHat7.1以降では、インストール時のセキュリティ設定によりrsh/telnetが使用できないことがあります。セキュリティレベルをrsh/telnetで使用できるレベルに変更しておいてください。変更方法についてはRedHatの使用説明書を参照してください。

NIS(Network Information Service)やDNSを使用している場合は、あらかじめサーバ側の設定をしてからインストールシェルを実行してください。

付属のプリンター設定ツールでも同様の設定ができるものがあります。それらを使用するときは各ツールのマニュアルを参照してください。

---

## IPアドレスの設定

---

### 操作の前に

あらかじめプリンターのネットワーク環境を設定しておきます。

- TCP/IPプロトコルを有効にする（工場出荷時は有効です）。
- IPアドレスなどTCP/IPに関する項目を設定する。

### 参照

ネットワーク環境の設定方法については、CD-ROMに収録されている使用説明書〈取り扱い編〉を参照してください。

---

## IPアドレスの確認

---

IPアドレスを設定したら正しく設定されたかどうかワークステーション側から確認してください。

### **1** 次のように入力して確認します。（プリンターのIPアドレスが192.168.15.16の場合）

```
# ping 192.168.15.16
```

正しく設定されていると次のように表示されます。

```
192.168.15.16 is alive
```

間違って設定されていると次のように表示されます。

```
no answer from 192.168.15.16
```

### 補足

- NISを使用している場合はマスターサーバ上の/etc/hostsに、DNSを使用している場合はネームサーバ上のデータファイルにIPアドレスとホスト名を追加します。追加後、ホスト名を使って正しく設定されたか確認してください。

```
# ping ホスト名
```

- サーバに登録したホスト名はIPアドレスの代わりに使用できます。

---

## インストールシェルの実行

---

プリンターにIPアドレスを設定したら、インストールシェルを使ってワークステーションの印刷環境をセットアップします。

### 補足

- インストールシェルはftpを使ってプリンターから取り出します。

### **1** プリンターを使用するワークステーションにrootでログインします。

#### 補足

- rootでログインしないとインストールシェルが起動しません。



**2** インストールシェルをプリンターから取り出します。

① インストールシェルをコピーするディレクトリに移動します。

② ftpコマンドで、設定したIPアドレスに接続します。

```
# ftp 192.168.15.16
Connected to 192.168.15.16
220 printer FTP server ready.
Name (192.168.15.16:root:)
```

③ ユーザー名の入力待ち画面では何も入力しないでReturnキーを押します。

```
331 Password required for root.
Password:
```

④ パスワードの入力待ち画面では何も入力しないでReturnキーを押します。

```
230 User root logged in.
ftp>
```

⑤ インストールシェルを取り出します。

```
ftp> get install
```

⑥ ftpを終了します。

```
ftp> bye
221 Goodbye.
#
```

**3** インストールシェルを起動します。

```
# sh ./install
```

 補足

カレントディレクトリであることを示すピリオド(.)を付けてください。

**4** 使用しているOSを数字で指定します。

```
Network printer install shell
Copyright RICOH CO.,LTD. 1994-2000
Select your workstation OS type.
1. SunOS 4.x.x
2. Solaris 2.x, Solaris 7-8(SunOS5.x)
3. HP-UX
4. UnixWare
5. Linux
6. OpenServer
7. Quit
Enter <1-7>:
1
```

 補足

「7」を指定するとインストールシェルは終了します。

**5** プリンターのIPアドレスを入力します。

```
Enter Printer host IP address <xxx.xxx.xxx.xxx> [return=skip]:
192.168.15.16
```

 補足

- ここで入力したIPアドレスが/etc/hostsに設定されます。 P.103 「/etc/hostsへのIPアドレスとホスト名の追加」
- すでにプリンターのホスト名が登録されているときは、何も入力しないでReturnキーを押します。このとき/etc/hostsには何も追加されません。

**6** プリンターのホスト名を入力します。

```
Enter Printer host name :
ibm
```

 補足

- ここで入力した名前が/etc/hostsと/etc/printcapに設定されます。ただし、手順⑤でIPアドレスを入力しなかったとき、/etc/hostsには何も追加されません。

**7** プリンターの名前を設定します。

そのままReturnキーを押すと「default」に表示されている名前に設定されます。この名前を変更したいときは新しい名前を入力します。

 補足

- ここで入力した名前が/etc/printcapに設定されます。 P.103 「/etc/printcapへのエントリーの追加」
- 「default」には手順⑤で入力したホスト名に\_prnを付けた名前が表示されます。手順⑤でホスト名を入力しなかったときはibm\_prnと表示されます。

**8** 印刷時のオプションを指定します。

オプションを指定しないときはそのままReturnキーを押します。

```
Enter remote printer name [default lp]:
filetype=RPS
hosts file is modified
#
```

インストールシエルによるセットアップが終了します。

 参照

指定できるオプションについて詳しくは、P.108 「オプション指定」を参照してください。

 補足

- ここでオプションを指定すると、入力した文字列が/etc/printcapのrpkeyバビリティに設定されます（ P.103 ）。lprで印刷すると、このオプションを使って印刷されます。
- 同じプリンターに対して異なるオプションを指定して印刷するときは、インストールシエルをもう一度実行し、オプションごとにエントリーを作成してください。

**9** テスト印刷してみます。

```
# lpr -Pibm_prn ファイル名
```

## インストールシェルの実行結果

インストールシェルを実行すると印刷環境が自動的にセットアップされます。

ここでは、SunOS 4.xでインストールシェルを実行した場合にセットアップされる内容について説明します。

### 補足

- インストールシェルを使わないでセットアップする場合は、ここでの説明を参考に各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

## /etc/hostsへのIPアドレスとホスト名の追加

/etc/hostsに次の行が追加されます。

```
192.168.15.16 ibm # Network Printer
```

- 192.168.15.16はプリンターのIPアドレス、ibmはプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。

### 補足

- /etc/hosts はネットワーク内で通信するすべてのホストのIPアドレスとホスト名を登録するファイルです。それぞれの項目はスペースかタブで区切られ、1行で入力されます。
- NISやDNSを使用していない場合は、ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上の/etc/hostsに追加が必要です。

## /etc/printcapへのエントリーの追加

/etc/printcapに次のエントリーが追加されます。

これはlprコマンドを使って印刷するための設定です。lprコマンドを使って印刷するには、/etc/hostsファイルの設定に加え、/etc/printcapにネットワークプリンターのためのエントリーを追加し、スプールディレクトリを作成する必要があります。

```
ibm_prn|Ibm Network Printer:/
      :rm=ibm:/
      :rp=filetype=RPS:/
      :sd=/usr/spool/ibm_prnd:/
      :lf=/usr/adm/ibm_prnd-errs:/
      :mx#0:
```

### 補足

- /etc/printcap はプリンターの名前や属性を登録するファイルです。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーションの/etc/printcapに、ネットワークプリンターのためのエントリーが必要です。
- 同じプリンターに対し異なるオプションを指定して印刷するときは、オプションごとにエントリーを作成してください。
- 1つのエントリーはコロン( : )で複数のフィールドに区切られています。読みやすくするために途中に改行を入れることができ、その場合は改行の前にバックスラッシュ( \ )を入力します。
- 1行目のフィールドはプリンターの名前です。ワークステーションからネットワークプリンターを指定するときに、この名前を使います。名前を「|」で区切るにより複数の名前を定義できます。

- 2行目以降のフィールドはプリンターの属性です。プリンターの属性はケーバリティと呼ばれる2文字の名前で表されます。ケーバリティについては、次の表を参照してください。

ケーバリティ	説明	ネットワークプリンターのための設定値
lp	プリンターのデバイス名	何も指定しない
rm	プリンターのホスト名	/etc/hostsに登録したホスト名
rp	オプション指定	印刷時のオプションを指定します。指定できるオプションについて詳しくは、P.108「オプション指定」を参照してください。
sd	スプールディレクトリのパス名	作成するスプールディレクトリのパス名
lf	ログファイル名のパス名	ログを格納するファイルのパス名 たとえば/usr/adm/lpd-errs
mx	スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズ。0を指定すると無制限、指定しないと1024kバイト。	指定しない、または適当な値

## スプールディレクトリの作成

/usr/spool/ディレクトリにスプールディレクトリが作成されます。名前はプリンターの名前の最後にdを付けた名前です。

### 補足

- スプールディレクトリは、印刷を行うデータファイルの一時的なコピーが作成されるなど、印刷ジョブを制御するために使われます。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上に、ネットワークプリンターのためのスプールディレクトリが必要です。
- スプールディレクトリは/etc/printcapに書き込まれたネットワークプリンターのエントリーごとに作成します。
- スプールディレクトリは通常/usr/spoolの下に作成します。スプールディレクトリは、/etc/printcapの中のsdケーバリティで指定したパス名と一致させ、オーナーとグループをdaemon、許可モードを775に設定します。以下はスプールディレクトリとして/usr/spool/ibm\_prndを作成するときのコマンド入力例です。

```
# cd /usr/spool
# mkdir ibm_prnd
# chown daemon ibm_prnd
# chgrp daemon ibm_prnd
# chmod 775 ibm_prnd
```

## ログファイルの作成

/usr/admディレクトリにエラーのログファイルが作成されます。名前はプリンターの名前の最後にd-errsを付けた名前です。

# 印刷方法

使用しているワークステーションに応じ、以下のようにコマンド入力します。

## ❖ BSD系UNIXワークステーションの場合

% lpr -Pプリンターの名前 ファイル名 [ファイル名...]

名前がibm\_prnのプリンターに、名前がfile1とfile2のファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
% lpr -Pibm_prn file1 file2
```

## ❖ Solaris、HP-UXの場合

% lp -dプリンターの名前 ファイル名 [ファイル名...]

名前がibm\_prnのプリンターに、名前がfile1とfile2のファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
% lp -dibm_prn file1 file2
```

### 補足

- プリンターの名前は、インストールシェル実行時に入力したプリンターの名前です。
- ファイル名には「\*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- タブコードや漢字コードがプリンターと合っていないと正常に印刷されません。タブ制御や漢字での印刷を行う場合は、使用するエミュレーションモードとデータの設定を一致させてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求が最大の状態です。(最大5セッション、スプール設定機能がONの場合最大10セッション。)印刷要求が4セッション(スプール設定機能がONの場合9セッション)以下になってから印刷し直してください。
- 搭載メモリーの増減によるセッション数の変化はありません。

---

## rsh、rcp、ftpコマンドによる印刷

---

rsh、rcp、ftpコマンドを使って印刷することもできます。

### 制限

- OpenServer 5.06以上では、rshコマンドをrcmdコマンドと読み替えてください。

### 補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- タブコードや漢字コードがプリンターと合っていないと正常に印刷されません。タブ制御や漢字での印刷を行う場合は、使用するエミュレーションモードとデータの設定を一致させてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求が最大の状態です(最大1セッション)。印刷要求が終了してから印刷し直してください。
- 本機の搭載メモリー量によって接続数が異なります。rcpコマンドは工場出荷時1、メモリー増設時は5です。ftpコマンドは工場出荷時1、メモリー増設時は3です。

---

## rsh

---

% rsh プリンターのホスト名 print [オプション] < ファイル名 [ファイル名...]

### 補足

- プリンターのホスト名は、インストールシェル実行時に入力したプリンターのホスト名です。
- オプションは、プリンター固有のものを指定できます。詳しくはP.108「オプション指定」を参照してください。

---

## rcp

---

### ❖ ファイルを指定して印刷する場合

% rcp ファイル名 [ファイル名...] プリンターのホスト名 : [オプション]

### ❖ ディレクトリすべてのファイルを印刷する場合

% rcp -r ディレクトリ名 プリンターのホスト名 : [オプション]

### 補足

- プリンターのホスト名は、インストールシェル実行時に入力したプリンターのホスト名です。
- オプションは、プリンター固有のものを指定できます。詳しくはP.108「オプション指定」を参照してください。
- ファイル名には「\*」や「?」のワイルドカードを使用できます。

---

## ftp

---

印刷するファイル数に応じてputまたはmputコマンドを使います。

### 制限

- ファイル名に「=」、「,」、「;」および「\_」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。

### ❖ 印刷するファイルが1つの場合

ftp> put ファイル名 [オプション]

### ❖ 印刷するファイルが複数の場合

ftp> mput ファイル名 [ファイル名...]

### 制限

- mputコマンドではオプションを指定できません。

### 補足

- mputコマンドではファイル名に「\*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルを印刷する場合は、-bオプションを付けて下さい。

ftpを起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。

**1** プリンターのIPアドレス（またはホスト名）を引数にしてftpコマンドを起動します。

```
% ftp プリンターのIPアドレス
```

 補足

- ホスト名はインストールシェル実行時に入力したプリンターのホスト名です。

**2** 必要に応じてユーザー名を入力し、パスワードは何も入力しないでReturnキーを押します。

```
Name:
```

```
Password:
```

**3** バイナリーファイルを印刷するときはファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

 補足

- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。

**4** 印刷するファイルを指定します。 補足

- file1とfile2という名前のファイルを印刷する例

```
ftp> mput file1 file2
```

**5** ftpを終了します。

```
ftp> bye
```

# オプション指定

以下に示すオプションを使うことにより、プリンター固有の機能を使った印刷ができます。

## 🚫 制限

- プリンターが認識できるオプション文字列は最大512バイトです。PostScript3をご使用の場合のオプション文字列は最大256バイトです。
- OSによってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、プリンターのプログラム登録を使ってください。
- Solaris2.6以上でオプションを指定するときは、イコール(=)の代わりにアンダーライン(\_)を使用します。複数のオプションを指定するときはカンマ(,)の代わりにセミコロン(; )を使用します。
- Solaris2.6以上でオプションを指定するときは、各コマンドで指定できるオプション数が異なります。
  - rsh/rcp : 1
  - lpr/ftp : 文字列制限の範囲内で複数指定可能
- 

## 📝 補足

- 複数のオプションを指定するときはカンマ(,)で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- lprで印刷するときのオプションはインストールシェル実行時に入力します。一度設定したオプションを変更する方法については、P.113「オプション指定の変更方法」を参照してください。
- イコール(=)を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ(,)を追加します。

## エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

filetype (またはfil) =エミュレーションの指定値 (またはプログラム登録番号の指定値)

エミュレーション	RPCS	R98	R16	PostScript 3
指定値	RCS	R98	R16	RPS/POSTSCRIPT

\*搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。

プログラム登録番号	プログラム1	プログラム2	プログラム3	プログラム4	プログラム5	プログラム6	プログラム7	プログラム8
指定値	P01	P02	P03	P04	P05	P06	P07	P08
プログラム登録番号	プログラム9	プログラム10	プログラム11	プログラム12	プログラム13	プログラム14	プログラム15	プログラム16
指定値	P09	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16

PostScript 3で印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)



```
<rsh> % rsh ibm print filetype=RPS < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:filetype=RPS
<ftp> ftp> put file1 filetype=RPS
```

### 💡 ftpのcdコマンドの利用

ftpで印刷する場合は、cdコマンドでオプションを指定しておけば、putまたはmputコマンド使用時にそのオプションが有効になります。

```
ftp> cd オプション
```

### ✎ 補足

- 現在設定されているオプションを表示するにはpwdコマンドを使います。

```
ftp> pwd
```

## 給紙トレイ

給紙トレイを指定します。

### 🚫 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

### ❖ PostScript 3

tray=給紙トレイの指定値

給紙トレイ	給紙トレイ1	給紙トレイ2	給紙トレイ3	手差しトレイ (マルチ)	自動トレイ 選択
指定値	tray1	tray2	tray3	bypass	all

トレイ2の用紙に印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print tray=tray2 < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:tray=tray2
<ftp> ftp> put file1 tray=tray2
```

## 用紙サイズ

用紙サイズを指定します。

### 🚫 制限

- 存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

### ❖ PostScript 3

paper=用紙サイズの指定値

指定値
a3 ( A3 ), a4 ( A4 ), a5 ( A5 ), a6 ( A6 ), jisb4 ( B4 ), jisb5 ( B5 ), jisb6 ( B6 ), ledger ( 11 × 17 ) , letter ( 8 1/2 × 11 ) , halfletter ( 5 1/2 × 8 1/2 ) , legal ( 8 1/2 × 14 ) , jpost ( はがき ) , custom ( 不定形サイズ )

A3の用紙に印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print paper=a3 < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:paper=a3
<ftp> ftp put file1 paper=a3
```

## 用紙種類

用紙の種類を指定します。

### 🚫 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- 存在しない用紙種類は指定しても無効です。

mediatype=用紙種類の指定値

指定値
plain ( 普通紙 ) , letterhead ( レターヘッド付き用紙 ) , transparency ( OHP フィルム ) , labels ( ラベル ) , recycled ( 再生紙 ) , color ( 色紙 ) , special ( 特殊紙 ) , thick ( 厚紙 )

再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:mediatype=recycled
<ftp> ftp put file1 mediatype=recycled
```

## 排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

### 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- 存在しないトレイは指定しても無効です。

### ❖ PostScript 3

outbin=排紙トレイの指定値

排紙トレイ	本体排紙トレイ	1ピンプリントポスト 上トレイ	4ピンプリントポスト 上トレイ1~4
指定値	upper/ optionaloutputbin1	inner	optionaloutputbin2~5

本体上トレイに排紙する場合のコマンド例は次のとおりです(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)。

```
<rsh> % rsh ibm print outbin=inner < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:outbin=inner
<ftp> ftp> put file1 outbin=inner
```

## 印刷部数

印刷部数を指定します。

### 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- PostScript 3の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

copies=印刷部数(1~999)

10部印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print copies=10 < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:copies=10
<ftp> ftp> put file1 copies=10
```

## ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

### 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- 「copies」と同時に指定しないでください。

qty=ソート部数 (1~999)

10部ソートして印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print qty=10 < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:qty=10
<ftp> ftp put file1 qty=10
```

## 両面印刷

両面印刷と綴じ方向を指定します。

### 制限

- PostScript 3のときだけ有効です。
- プリンター側にオプションの両面ユニットが必要です。

### ❖ PostScript 3

duplex=on (両面印刷する)

duplex=off (両面印刷しない)

binding=left (両面印刷時の綴じ位置の設定: 左)

binding=top (両面印刷時の綴じ位置の設定: 上)

binding=right (両面印刷時の綴じ位置の設定: 右)

両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print dupledx=on,binding=left < file1
<rcp> % rcp file1 ibm:dupledx=on,binding=left
<ftp> ftp put file1 dupledx=on,binding=left
```

綴じ方向	左綴じ		上綴じ		右綴じ	
印刷方向	Portrait	Landscape	Portrait	Landscape	Portrait	Landscape
綴じ結果						
指定値	left		top		right	

BINDIGI02J

## 解像度

印刷する解像度を指定します。

### 制限

□ PostScript 3のときだけ有効です。

resolution=解像度 (1200,600,300)

600dpiで印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。(プリンターのホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print resolution=600 < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 ibm:resolution=600
```

```
<ftp> ftp> put file1 resolution=600
```

## 印刷方向

用紙の印刷方向を指定します。

orientation=印刷方向 (portrait, landscape)

用紙の方向を指定する場合のコマンド例は次のとおりです。(本機のホスト名ibm、ファイル名file1)

```
<rsh> % rsh ibm print orientation=portrait < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 ibm:orientation=portrait
```

```
<ftp> ftp> put file1 orientation=portrait
```

## オプション指定の変更方法

lprで印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

### ❖ BSD系UNIXワークステーション

/etc/printcapから修正するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします( P.100 「インストールシェルの実行」)。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。

または、/etc/printcapから修正するプリンターのエントリーを探し、そのrpカーパビリティを新しいオプション指定に修正します( P.103 「/etc/printcapへのエントリーの追加」)。

### ❖ Solaris、HP-UX

修正するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします( P.100 「インストールシェルの実行」)。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。

① スケジューラを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

② プリンターを削除します。

```
# /usr/sbin/lpadmin -x プリンターの名前
```

③ スケジューラを再起動します。

```
# /usr/lib/lp/lpsched
```

## プリンターの状態表示

BSD系UNIXワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーしたりすることができます。

### 表示する場合

lpqコマンドを使ってプリンターの状態（ステータス）とプリントジョブ情報を表示できます。

```
% lpq -Pプリンター名
```

rshコマンドまたはftpを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。

```
% rsh プリンターのホスト名 パラメーター
```

```
% ftp プリンターのホスト名
```

```
User: ユーザー名
```

```
password:
```

```
ftp> get パラメーター -
```

rsh、rcp、ftpで指定できるパラメーターには次の種類があります。

パラメーター	表示またはコピーできる内容	参照先
stat	プリンターの状態（ステータス）	プリンター本体の使用説明書
	印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）	P.146
info	給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報（プリンター情報）	プリンター本体の使用説明書
prnlog	これまでに印刷した10件分の記録（プリントログ情報）	P.147
syslog	ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）	P.151

### ファイルにコピーする場合

rcpコマンドまたはftpを使って、指定したパラメーターに応じた内容をファイルにコピーできます。

#### 補足

□ パラメーターの種類は表示する場合と同じです。

```
% rcp プリンターのホスト名:パラメーター ファイル名
```

```
% ftp プリンターのホスト名
```

```
User: ユーザー名
```

```
password:
```

```
ftp> get パラメーター ファイル名
```